

## 研究紹介

このHPは「**フードデザート問題 (food deserts issues : 食の砂漠問題) 研究グループ**」の活動内容を紹介するページです。

フードデザートとは、社会・経済環境の急速な変化の中で生じた生鮮食料品供給体制の崩壊と、それに伴う社会的弱者層の健康被害を意味する社会問題です。近年欧米諸国では、フードデザート (food deserts) が問題視されています。スーパーストアの郊外進出が顕在化したイギリスでは、1970-90年代半ばに、inner-city / suburban estateに立地する中小食料品店やショッピングセンターの倒産が相次ぎました (Guy 1996)。その結果、郊外のスーパーストアに通えないダウンタウンの貧困層は、都心に残存する、値段が高く、かつ野菜やフルーツなどの生鮮品の品揃えが極端に悪い雑貨店での買い物を強いられています。イギリスでは、彼らの貧しい食糧事情が、ガンなどの疾患の発生率増加の主要因であると指摘する研究報告が多数見られます (Davey Smith, D and Brunner, E 1997)。一方、アメリカではフードデザートエリアにジャンクフード店が入り込み、肥満問題が発生しています (Swinburn ほか2004, など)。フードデザートは、単なる買い物不便にとどまる問題ではありません。その背景には、社会格差の拡大や社会構造の変容、都市構造の変化、食育問題など、様々な問題が介在しています。欧米では、フードデザートは、社会的排除 (Social exclusion) 問題の一種として、政府レベルでの対策が進められています (Wrigley 2003ほか)。

フードデザートは、1)「生鮮食料品供給システムの崩壊」、および2)「社会的弱者の集住」、という2つの要素が重なったときに発生する社会問題です。「生鮮食料品供給システムの崩壊」には、自宅から店までの物理的距離の拡大 (商店街の空洞化など) 以外にも、経済的・心理的距離の拡大 (貧困や差別、社会からの孤立など) も含まれます。「社会的弱者」は、高齢者や外国人労働者など、国・地域によって異なります。この問題には、社会的排除問題 (Social exclusion issues) が強く影響しています。そもそも、街の構造は時代とともに絶えず変化します。都市構造が変わるとき、必ず「ひずみ」が生じます。現在日本で深刻化している、モータリゼーションの進展による中心商店街の空洞化や、大都市圏の縮小の中で取り残され老朽化・高齢化する郊外の住宅団地なども、こうした「ひずみ」の一つです。「ひずみ」に落ち込み苦しむのは、いつの時代も社会的弱者と呼ばれる人たちです。独居世帯の急増 (核家族化の進展) や貧困の拡大、社会からの引きこもる高齢者の増加 (コミュニティの衰退)、不採算地域における生鮮食料品店や公共交通機関 (医療、社会福祉施設) の撤退、各種の社会保障制度の見直しなども、フードデザートを拡大させる要因です。

日本では、地方都市や郊外の住宅団地、中山間集落に住むご高齢の方々を中心に、フードデザート問題が深刻化しています。所得の格差が広がるなか、子供世帯やご近所、友人たちからの支援も得られず、僅かな基礎年金だけで暮らざるをえない一人暮らしのご年配の方が、急速に増えています。社会から引きこもり孤立する年寄りたちの増加も深刻です。フードデザート地域にお住まいのこうした方々の間では、買い物の困難さから食事の栄養バランスが偏り、「低栄養」などの健康被害が拡大していることが危惧されます。急激な人口高齢化を迎える日本において、高齢者の居住環境の悪化は喫緊の研究課題です。しかし、多くの自治体ではフードデザートを十分認識していません。

被災地では、フードデザート問題がより一層深刻化しています。被災された方々、地方行政の皆さん、ボランティアの方々。みなさんは本当にガンバっていらっしゃいます。頭がさがります。しかし、フードデザート問題は依然として深刻な状態です。喫緊の課題です。

フードデザート問題の発生には、貧困や高齢者の社会からの孤立など様々な要因が深くかかわっています。地理的な意味で生鮮食料品店への近接性を高めても、他の要因が改善されない限り、高齢者の栄養状態は改善されにくいのが現状です。また、現在は空洞化する地方都市中心部や過疎地域が注目されていますが、今後急速に高齢化が進みフードデザートが深刻化するの、大都市郊外 (住宅団地など) です。フードデザート問題は、近い将来非正規雇用の若年層や外国人労働者達に拡大していく可能性もあります。長期的視野に立った対策が必要です。

国や地域によって、社会・文化的な背景や都市構造等は大きく異なります。必然的に、フードデザート問題の性質も多様化します。高齢者を中心に問題が深刻化する日本では、欧米とは異なる独自の解決策が必要です。私達のグループは、日本でのフードデザート問題の実態解明と、問題解決に向けた議論を進めることを目的とし、研究を進めています。

---

## メンバー

- 岩間信之 (茨城キリスト教大学文学部 准教授) : 都市地理学, フードデザート研究  
田中耕市 (徳島大学総合科学部 准教授) : 交通地理学, GIS  
佐々木 縁 (広島修道大学人間環境学部 准教授) : 環境問題, GIS  
駒木伸比古 (愛知大学地域政策学部 助教) : 商業地理学, GIS (フードデザートマップ)  
齋藤幸生 (水戸短期大学附属高等学校 教諭) : 高齢者福祉問題  
池田真志 (拓殖大学商学部 助教) : 商業・流通システム
-

# フードデザートマップ

## 1)茨城県水戸市中心部のフードデザートマップ

地理情報システム (GIS)を援用し、フードデザートエリアを定量的に算出した地図です。この図で、実際にフードデザート問題が発生しているエリアを特定することが可能です。この地図は、徳島大学の田中君と筑波大学大学院生の駒木君が作成したものです。

<http://www.csis.u-tokyo.ac.jp/csisdays2007/csisdays2007-ra-pdf/csisdays07-b07.pdf>

## 2)東京都中心部のフードデザートマップ

東京都心部におけるフードデザートマップの試作品です。以前投稿した論文「E-journal GEO」の原稿の一部です。p48 (PDFファイルの6ページ)に地図が掲載されています。東京の中心部でもフードデザートが広がっていることが分かります。広島修道大学の佐々木さんがアメリカの学会でこの地図を発表し、好評を頂きました。現在、より精緻な地図を作成中です。

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/ajg/ejgeo/214359araki.pdf>

---

## 最近の動向・ニュース

- ・平成23年度 シンフォニカ 統計GIS活動奨励賞を頂きました (2012.3)。
- ・日本地理学会にて、東日本大震災に関する調査報告を発表しました (2011.9)。
- ・フードデザートに関する書籍が出版されました。『フードデザート問題：無縁社会が生む「食の砂漠」』農林統計協会。(2011.6)。
- ・いばらき生協で開始する移動スーパー事業が、経済産業省による買い物弱者支援対策事業に認定されました。(2010.12)
- ・私達との連携という形で、いばらき生協やセブンイレブンが本格的なFDs対策が進められています。内容は随時ご報告します。(2010.12)
- ・雑誌「地理」(古今書院)8月号にフードデザート特集が掲載されました。
- ・農林水産省政策研究所セミナーにて講演しました。(2010.6.17)発表要旨はこちら<http://www.maff.go.jp/primaff/meeting/gaiyo/seminar/2010/0617.html>
- ・NHK総合テレビ「クローズアップ現代」でフードデザート問題が紹介されました。(2010.2.1)
- ・NHK総合テレビ「特報首都圏」でフードデザート問題が紹介されました。(2009.7.10)